

入場無料

日本学術会議公開シンポジウム

ドイツのハルツ改革が労働法・社会保障法に与えた影響

先進国の多くでは、少子・高齢化の進行とともに、非正規雇用の増加が、労働法や社会保障法のシステムの持続可能性に大きな影を落としている。ドイツでは、2000年代の初めに「ハルツ改革」という大きな構造改革を経験しており、日本でも注目されているが、その評価をめぐってはドイツのみならず日本でも議論がある。日本と社会や労働市場の構造が似ているドイツの経験は、労働法や社会保障法で何を示唆しているのか、この分野の第一人者である研究者を交えて検討を加えたい。

平成30年9月14日(金) 会場：日本学術会議講堂

プログラム

13:00 開会挨拶・趣旨説明：糠塚康江（日本学術会議第一部会員：東北大学大学院法学研究科教授）

13:15 基調講演：ライムント・ヴァルターマン（ボン大学法学部教授）逐語通訳つき

15:00 討論1：和田肇（日本学術会議第一部会員：名古屋大学大学院法学研究科教授）

15:30 討論2：廣瀬真理子（日本学術会議第一部会員：東海大学教養学部教授）

15:50 まとめ・閉会の辞：丸谷浩介（日本学術会議連携会員：九州大学大学院法学研究院教授）

16:00 閉会

会場住所・地図

日本学術会議講堂
港区六本木 7-22-34
東京メトロ千代田線
乃木坂駅下車徒歩1分

【事前申し込み不要】



主催：日本学術会議第一部法学委員会「セーフティ・ネットのあり方を考える」分科会

共催：科学研究費基盤研究（S）「雇用の持続可能性と労働法のパラダイム転換」